

定例公安委員会の開催概要

定例公安委員会は、令和2年7月29日（水）に開催されました。

1 決裁事項

- ・ 第1回定例会（6月議会）審議結果について
- ・ 運転免許の取消処分について

2 報告事項

(1) 令和2年上半期の県内における自殺者について（暫定値）

県警察から、令和2年上半期の県内における自殺者に関する報告があった。

令和2年上半期の自殺者は85人と、前年同期より24人減少した。

特徴として、年齢別では70代が26人と最も多く、次いで60代の18人となっている。

65歳以上の高齢者は48人で前年同期より6人減少しているが、全体に占める高齢者の割合は56.5%であり、前年同期の割合より7ポイント高くなっている。

原因・動機別では、健康問題が47件（46.5%）と最も多く、次いで経済・生活問題の14件（13.9%）となっている。

職業別では無職者（学生を含む。）が59人で、全体に占める割合が69.4%と最も多く、次いで被雇用者・勤め人が19人（22.4%）となっているとのことであった。

委員から、『引き続き関係機関と連携しながら自殺防止に努めてもらいたい。』との発言があった。

(2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律違反事件被疑者の逮捕について

県警察から、廃棄物の処理及び清掃に関する法律違反事件被疑者の逮捕に関する報告があった。

秋田中央警察署は、秋田市内の市道脇の会社敷地内等に汚物入りペットボトル10数本を投棄したとして、秋田市の会社員の男（46歳）を通常逮捕したとのことであった。

委員から、『悪質であり、しっかりと捜査していただきたい。』との発言があった。

(3) 令和2年上半期の特殊詐欺の認知検挙状況（暫定値）等について

県警察から、令和2年上半期の特殊詐欺の認知検挙状況等に関する報告があった。

令和2年上半期の特殊詐欺認知件数は13件、被害総額は約2,632万円と、前年より件数は8件、金額は約4,398万円減少した。

認知事件の特徴として、手口別では高齢者対象の手交型オレオレ詐欺、預貯金詐欺、キャッシュカード詐欺盗は減少しているものの、依然として高齢者が被害に遭う割合が高い現状にある。

交付形態別では昨年増加した手交型が減少している。

年代別では60代以上の年代がオレオレ詐欺、架空料金請求、詐欺盗の被害に遭っている。

検挙対策、犯行ツール対策として受け子、出し子被疑者の現場検挙と突き上げ捜査、被害分析に基づいた先制的対策、突き上げ捜査による犯行グループの全容解明及び口座凍結や犯行使用携帯電話停止要請など犯行ツール遮断対策の推進などに努めている。

防止対策として、新型コロナウイルス感染症に便乗した詐欺事案等に対する注意喚起、警察官や高齢者安全・安心アドバイザーによる訪問やツイッター、ヤフーなど各種広報媒体を活用した情報発信のほか、コンビニ店への「被害防止封筒」の継続配布、電子マネー購入者に対する声掛け指導による水際対策、自動通話録音（警告）電話機の貸出促進、預金口座からのATM利用限度額引下げの働き掛けなどの物理的な被害防止対策等を実施しているとのことであった。

委員から、『様々な対策を行っているが、まだまだ浸透不足と思われる。』『地道ではあるがしっかりと広報活動を継続してもらいたい。』との発言があった。

(4) 令和2年夏の交通安全運動の実施について

県警察から、令和2年夏の交通安全運動の実施に関する報告があった。

8月1日から8月10日までの10日間、「子供と高齢者の交通事故防止」を基本とした令和2年夏の交通安全運動が始まる。各警察署では、関係機関・団体等と連携した各種行事、キャンペーン等を実施するとのことであった。

委員から、『県外との往来も増えており、効果のある運動となるよう期待している。』との発言があった。